

目次

社名の由来／曙の理念	2
akebono 21世紀宣言／経営方針／ブランドステートメント	4
ごあいさつ：代表取締役社長 信元久隆	6
akebono 85th Anniversary／85周年記念 年間行事	8

第1章 創業・草創期 1929 — 1959 ブレーキ摩擦材メーカーとして創業

1929 — 1939 自動車産業の先駆けとして初の国産ブレーキライニング製造 株式会社の設立と大規模工場の建設	22
1940 — 1953 戦時の混乱を乗り越え 曙産業株式会社として再出発 新製品「耐摩レジン」が鉄道分野への道を拓く	24
1954 — 1959 高度な機械設備開発の原点 総合ブレーキメーカーを目指し ブレーキシューの生産を開始 信元安貞新体制が誕生 全社的な合理化計画を展開	26
<i>Theme</i> 時代とともに移り行く本社の所在地	28

第2章 第1の転換期 1960 — 1985 総合ブレーキメーカーへの飛躍

1960 BX社との技術提携を機に総合ブレーキメーカーへ 相次ぐ技術提携を経て ブレーキ業界で不動の地位を確立	32
1961 — 1969 悲しみを乗り越え、社是『誠和魂』の誕生 規模拡大と競争力強化を追求	34
1970 — 1976 本格的な国際競争の時代に。信元安貞体制発足以来、最大の危機 合理化政策の基盤となる「MPシステム」	36
1977 曙からakebonoへ シカゴから始まった海外への第一歩 若手駐在員たちによる海外拠点設立	38
1978 — 1985 akebonoオリジナルの確立へ AD型ディスクブレーキを開発 社内が歓喜に沸いた、東証一部上場	40
<i>Theme</i> 自分たちが切り開くという誇りを胸に—AD型ディスクブレーキを独自開発。そして、日本機械学会賞を受賞—	42
<i>Theme</i> 巣立っていった保専生たち	46

第3章 第2の転換期 1986 — 1989 グローバル化への海外展開を加速

1986 初の海外生産拠点を設立 経営トップの強い意志の下で、新生産システム「APS」を導入	52
1987 — 1989 米国で基盤を確立し、欧州への展開。総合システムメーカーを目指す 技術力強化の一翼を担う 大規模なテストコースが完成	54
<i>Theme</i> 知られざるアメリカ進出の軌跡 Ambrake Corporation 設立メンバー回想録	56

第4章 変革期 1990 — 2009 競争力強化へ、企業変革に着手

1990 — 1991	総力戦でなければグローバル競争に生き残れない 信元久隆が代表取締役社長に就任。企業変革に着手	60
1992 — 1994	21世紀への布石、中期経営計画を開始 夢の摩擦材工場と新生・物流会社の誕生 IBS 構想に込められた危機感とWIN21 作戦の実行	62
1995 — 1998	日米欧の三極体制を構築 組織の抜本的な見直しとIBEX プラン	64
1999 — 2001	akebonoの独自性に根差した「曙の理念」を策定 間接業務にもAPSを。本社社屋「ACW」が完成	66
2002 — 2004	中期経営計画「Forward 30」開始 次世代ブレーキ開発、VCETプロジェクトを開始 障がい者雇用に資する「あけぼの123」が埼玉県初の特例子会社に認定	68
2005 — 2007	新中期経営計画「Global 30」開始 体制を見直し、経営の効率化を図る	70
2008 — 2009	新中期経営計画「akebono New Frontier 30」開始 Robert Bosch GmbHと北米ブレーキ事業譲渡契約締結 中部オフィスおよびグローバル本社竣工	72
Theme	社員の想いを集約、近未来の目標を明文化 —ブランドステートメント制定—	74
Theme	小さなことから一歩ずつ。認め合う心・育てる想い —あけぼの123—	77

第5章 第3の転換期 2010 — 2014 真のグローバル化に向けて

2010 — 2012	第3の転換期を迎え「真のグローバル企業」を目指す 東日本大震災発生 中期経営計画の加速	82
2013 — 2014	2020年に目指す姿「長期ビジョン」を策定 海外事業展開を加速 85周年をひとつの節目に再スタートへの決意を共有	84

資料

曙ブレーキグループ企業・拠点一覧	86
曙ブレーキグループ 主な沿革	90
曙ブレーキグループ 国内拠点沿革	91
曙ブレーキグループ 北米拠点沿革／欧州拠点沿革／アジア拠点沿革	93
売上高の推移／当期純利益の推移／製品別売上高構成比の推移／地域別売上高構成比の推移 資本金の推移／従業員数の推移／大株主の推移	96